聖書の預言　確かなものですか　（エルサレム編 2）

エルサレムに対するイエスの予言

今日のエルサレムと嘆きの壁

前回エルサレムは古代において重要な都市であることを考えてきました。

現代おいても重要な都市であるといえます。

バビロン捕囚によってエルサレムは70年の荒廃を経験しますが、キュロス大王によってバビロン捕囚から解放されます。
その後、神殿が再建され、イエスが歴史の舞台に登場する頃には、ヘロデ大王によって神殿が大々的に改装され、見事な神殿となっていました。

しかしイエスはエルサレムに関して次のように予言しました。

> 神殿が立派な石や献納物で飾られていることについて何人かが話していた時，イエスは言った。「あなたたちがいま見ているこれらの物についていえば，石が石の上に残らずに崩されてしまう時が来ます」。
> それで彼らはこう質問した。「先生，そのようなことは実際いつあるのでしょうか。そのようなことが起きるのが近いことを示すしるしは何ですか」。
> イエスは言った。「惑わされないように気を付けなさい。多くの人が私の名を使って現れ，『私がその者だ』とか『その時が近い』とか言うからです。その人たちに付いていってはなりません。さらに，戦争や騒乱について聞いても，おびえてはなりません。まずこれらのことが必ず起きますが，終わりはすぐには来ないのです」。
> それからイエスは言った。「国民は国民に，王国は王国に敵対して立ち上がります。 大きな地震があり，あちらこちらで食糧不足や流行病があります。また，恐ろしい光景や天からの大きなしるしがあります。
> エルサレムが陣営を張った軍隊に囲まれるのを見たなら，その時，荒廃が近づいたことを知りなさい。
> その時，ユダヤにいる人は山に逃げ始めなさい。都の中にいる人はそこを出なさい。田舎にいる人は都に入ってはなりません。
> なぜなら，これは処罰が下される期間であり，書かれていること全てが実現するのです。
> その期間，妊娠している女性と赤ん坊に乳を飲ませている人にとっては悲惨なことになります！ その土地はひどい貧困に見舞われ，この民に対する憤りが表されるからです。
> 人々は剣の刃に倒れ，捕らわれて全ての国の人々のもとへ引いていかれます。そしてエルサレムは，異国の人々の定められた時が満ちるまで異国の人々に踏みにじられます。
> （ルカ　21：5-24）

イエスが刑柱に引かれていく時、エルサレムの女性たちがイエスになされる仕打ちに悲嘆している時、イエスは彼女たちに次のように語られ、エルサレムに臨む悲劇に関して警告を与えられました。

> イエスは女性たちの方を向いて言った。「エルサレムの女性たち，私のため

に泣くのをやめなさい。むしろ，自分と自分の子供たちのために泣きなさい。

人々が，『子供ができない女性，また子供を産まなかった女性や乳を飲ませなかった女性は幸せだ！』と言う時が来るからです。 その時人々は，山に向かって，『われわれにかぶさってくれ！』と言い，丘に向かって，『われわれを覆ってくれ！』と言いだします。
木に生気がある時にこうしたことがなされるのであれば，枯れた時には何が起きるでしょうか」。　　（ルカ23：28-31）

エルサレムの滅亡

イエスの死後33年経った66年、いよいよ運命の歯車が動き出します。

イスラエルはローマの圧政に苦しんでいました。
それでローマの支配を打ち破ろうと画策します。
ローマが神殿の宝物庫から"未払いの税"として17タラントを押収します。ユダヤ人たちはそれに激怒し，暴動を起こします。熱心党の人々はエルサレムになだれ込み，そこでローマ軍を虐殺し、ユダヤの独立を宣言します。ユダヤとローマは戦争状態になってしまったのです。
3か月もしないうちに，ローマのシリア総督ケスティウス･ガルスがユダヤ人の反乱を鎮圧するために3万の軍勢を引き連れてきます。その軍勢は仮小屋の祭りの最中にエルサレムにやって来て，直ちにその郊外に入ります。数の上で劣っている熱心党の人たちは，神殿の内部にたてこもりますが、ローマ軍の兵士たちはすぐに神殿の壁を崩し始めます。
後少しでエルサレムは陥落というところで、ガルスはなぜか突如撤退します。
それに力を得たイスラエルはローマ軍を追撃し勝利を収めます。

しかしこの勝利は神の恵みではありませんでした。
より破壊的な滅びへの序章に過ぎなかったのです。

クリスチャンはこの出来事から、イエスの次の言葉を思い出します。

エルサレムが陣営を張った軍隊に囲まれるのを見たなら，その時，荒廃が近づいたことを知りなさい。
その時，ユダヤにいる人は山に逃げ始めなさい。都の中にいる人はそこを出なさい。田舎にいる人は都に入ってはなりません。

エルサレムの滅びが近づいたしるしだったのです。
クリスチャンはイエスの諭しに従って、ペラと呼ばれる都市に避難します。
再びエルサレムに上らないようにもします。

それから４年後の70年、ローマの将軍ティツスは6万もの大軍を動員し、エルサレムに攻め上ります。

その頃ちょうど過越の祭がエルサレムで催されていました。エルサレムに多くのユダヤ人が集まっていたのです。

『エルサレムの包囲と破壊』。（David Roberts）

そこにローマ軍が襲来し、エルサレムを包囲します。彼はエルサレムの周囲に先のとがった杭で全長約7㌔の柵を築き、エルサレムに食料が届けられないようにします。

「あなたの敵が，先のとがった杭でまわりに城塞を築き，取り巻いて四方からあなたを攻めたてる日が来る」とのイエスの予告どおりになります。
（ルカ 19:43。）

最初の内はローマに投降することも出来たようですが、そのうちに投降するものは裏切り者として処刑されたために、投降することが出来なくなりました。
120万もの人が狭い都市に閉じ込められたため、食糧不足が深刻なものとなります。
飢饉が深刻なものとなり、母親が自分の子を食べてしまうという悲劇が起きたことをヨセフスは伝えています。

まさに次の予言が成就したのです。
「あなたは，自分の腹の実，すなわち……自分の息子や娘たちの肉を食べることになるであろう。敵があなたを囲み込むその囲みの厳重さと圧迫とのためである」。 （申命記 28:53-57。）

エルサレムは自壊して崩壊していきます。

離散する民

壮麗な神殿はどうなったでしょうか。
ティッスは神殿の壮麗さに感銘を受け、何とか神殿を保護しようとします。
しかし兵士の一人が神殿に火がついたたいまつを投げ込みます。そのため神殿が炎上してしまいます。
神殿には大量の金が使われていましたが、その金が熔け石の間に入り込んでしまいます。

ジェームズ・ティソ - ヘロデ神殿

金を取り出すために神殿は徹底的に破壊されることになってしまい、まさにイエスの次の言葉が成就したのです。
「石が石の上に残らずに崩されてしまう時が来ます。」

エルサレムに120万余りの人が逃げ込んでいましたが、助かったのはわずか10万足らずといわれています。
しかしながらその助かった人々も奴隷としてあちこちに連れていかれることになりました。

「人々は剣の刃に倒れ，捕らわれて全ての国の人々のもとへ引いていかれます。そしてエルサレムは，異国の人々の定められた時が満ちるまで異国の人々に踏みにじられます。」
とイエスが預言していたとおり、イスラエルの民は流浪の民となって世界各地を漂います。

イスラエルの復興

イエスは「定められた時が満ちるまで」と語ることによって、再びイスラエルが復興することを預言していましたが、その預言は実現するでしょうか。

アウシュビッツ強制収容所

それからのイスラエルの民は苦難の連続であったと言っても過言ではありません。
イエスを殺害した民として差別され、正当な職業に就くことさえ出来ませんでした。
ユダヤ人は様々な苦難を経験し、19世紀になんとか約束の地に帰還できないかと考え、イスラエル復興運動を起こします。

19世紀末頃その動きがいよいよ活発になっていきます。

イギリス政府とロックフェラーなどのユダヤ人系の有力者が結びつき、イスラエル復興の動きを本格化させます。
1918年イギリスがパレスチナを統治し、ヘブライ語を一つの公用語として認めることで、イスラエル復興の布石が打たれます。

第2次大戦中、ナチスによる迫害は熾烈を極め、600万ほどの人々が殺害されるというおぞましい悲劇が起こります。

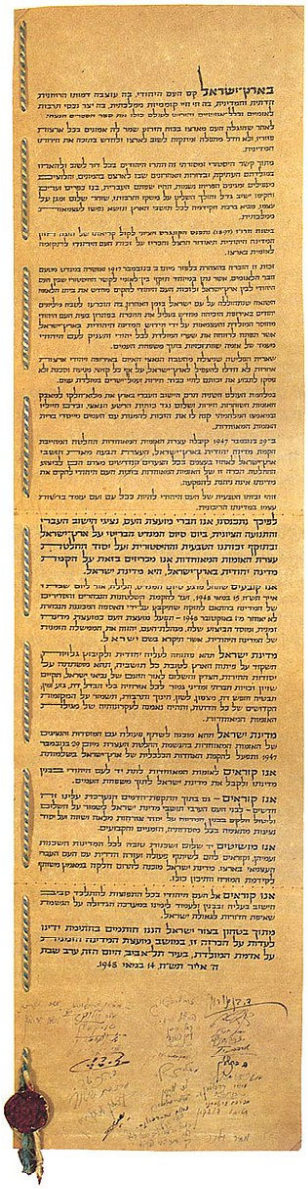
その結果、イスラエル復興の動きがさらに活発化し、遂に1948年イスラエルの独立宣言が発せられます。
ここにユダヤ人の2000年近い悲願が達成することになりました。

まさにイエスの預言が成就したのです。
しかしこれは世界の「終わりの日」の始まりともなりました。
「終わりの日」とはなんでしょうか。

聖書は終わりの日について多くの情報を与えています。

エルサレムが敵の軍勢によって再び囲まれる時が来ることを予告しています。
しかし今回は敵が滅ぶことになります。
それは世界が真の平和を獲得する道を開くものともなります。
しかしそれは多くの人の滅びという犠牲を強いるものともなるでしょう。
機会があれば「終わりの日」について詳しく考えてみたいと思います。

4月15日イエスの死を思い起こす「主の記念式」が行われます。
次回、メシアの死がどのように預言されていたのか、見てみましょう。



イスラエル独立宣言